

奨励賞 (50園中12園が国公幼、うち2園が国立大附属)

- *北海道札幌市立手稲中央幼稚園
- *北海道札幌市立はまなす幼稚園
- *福島県川俣町立川俣南幼稚園
- *東京都千代田区立番町幼稚園
- *上越教育大学附属幼稚園
- *山梨大学教育学部附属幼稚園
- *愛知県安城市立安城北部幼稚園
- *愛知県西尾市立鶴城幼稚園
- *京都府京都市立楊梅幼稚園
- *大阪府富田林市立新堂幼稚園
- *兵庫県加古川市立両荘幼稚園
- *奈良県奈良市立富雄北幼稚園

公益財団法人 日本生態系協会
全国学校・園庭ビオトープコンクール 2019

上位5賞のうち2賞が国公幼 いずれも大阪府富田林市立幼稚園

ドイツ大使館賞

- *大阪府富田林市立新堂幼稚園

日本生態系協会会長賞

- *大阪府富田林市立青葉丘幼稚園

日本生態系協会賞 (幼稚園・保育所・認定こども園の受賞園31園のうち、2園が国公幼)

- *大阪府富田林市立錦郡幼稚園
- *新潟県新潟市立沼垂幼稚園

詳しい内容は、各団体や各園のホームページ等をご覧ください。

公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム

1月18日(土)、ソニー株式会社本社にて、2019年度 ソニー教育助成の贈呈式が行われ、最優秀園、優秀園の皆さんが表彰されました。幼児教育支援プログラムでは153園の応募があり、今回は、受賞園のうち3分の1が国公幼の会員園という素晴らしい成績でした。



最優秀園の2園はいずれも国公幼、優秀園は半数、優良園は半数

権威ある賞の受賞ラッシュで
実践の質の高さを実証!

おめでとう
ございます!

今、社会は幼児教育の質の高さを求めています。そのような状況の中、いくつかの権威ある団体のコンクール等において、国公幼の会員園が実践・研究をまとめ、積極的に応募し、多くの園が名誉ある賞を受賞しました。今回は、それぞれの受賞式、発表大会に会長が参列させていただきました。お祝いをするとともに、関係の皆様とお話しをする中で、国公幼の実践・研究の質の高さや地域の中での存在意義について認識を共有することができました。全国各地の会員園が、日々の実践や研究にこれまで以上に積極的に取り組む励みになることを期待して、ここにご紹介させていただきます。

また、これらの実績が、各自治体の首長や教育委員会、幼児教育・保育行政の担当者に、国公幼の存在意義を理解していただくきっかけとなることを期待しています。

(文責:会長 新山裕之)

公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
2019年度 保育実践論文

全国で受賞した74園のうち、3分の1にあたる25園が国公幼!

最優秀園 (2園中2園が国公幼、うち1園が国立大附属)

- *福島大学附属幼稚園
- *京都府京都市立中京もえぎ幼稚園

優秀園 (8園中4園が国公幼、うち1園が国立大附属)

- *山形県南陽市立赤湯幼稚園
- *千葉県大学教育学部附属幼稚園
- *兵庫県姫路市立中寺幼稚園
- *奈良県奈良市立都跡こども園

優良園 (13園中7園が国公幼、うち2園が国立大附属)

- *福島県川俣町立富田幼稚園
- *東京都江東区立もみじ幼稚園
- *新潟県新潟市立沼垂幼稚園
- *滋賀県草津市立矢倉幼稚園
- *京都教育大学附属幼稚園
- *岡山県玉野市立荘内南幼稚園
- *鹿児島大学教育学部附属幼稚園

公益財団法人 日本生態系協会
全国学校・園庭ビオトープコンクール2019

2月2日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホールにおいて、秋篠宮皇嗣殿下をお迎えし、全国学校・園庭ビオトープコンクール2019発表大会が行われました。このコンクールは今回で11回目(22年目)となった自然と共存する



学校・園庭を全国に広めるために開催されている2年に一度のビオトープのお祭りです。今回も幼稚園から大学まで、数多くの取り組みの中で、厳正な審査を経て、各賞が選ばれ、その上位5賞のうち2賞が、いずれも大阪府の国公幼という大変素晴らしいことでした。ドイツ大使館賞を富田林市立新堂幼稚園が受賞、日本生態系協会会長賞を富田林市立青葉丘幼稚園が受賞され、壇上で表彰されました。新堂幼稚園はドイツ大使から園児が賞状をいただき、取り組みの発表の際にも5歳児7人全員が舞台上で日頃のビオトープでの気付きや発見を自分の言葉で元気に発表し、会場から温かな拍手を受けていました。

その後、国際交流棟レセプションホールにおいて「みんなのビオトープ展」も開催されました。上位5賞の2園の他に協会賞を受賞した富田林市立錦郡幼稚園と新潟市立沼垂幼稚園も含め、各園のビオトープでの取り組みをパネルで紹介し、それぞれの先生方が目を輝かせて説明する姿がとても印象的でした。講評の中でも、幼児期の自然体験の重要性が話題になり、富田林市立幼稚園の実践を優れたモデルとして推奨していただきました。教育委員会の指導主事も参加してくださっており、この名誉と実績を大事にし、積極的に市民にもアピールしていきたいと力強い言葉をいただきました。

以上、奨励園は50園のうち12園が国公幼でした。改めて、私たちの日々の実践の大きな励みとなるとともに、社会や行政に向けて、幼児教育の質の向上のために国公幼の重要性を発信する機会となりました。

ソニー吹奏楽団による演奏もある厳かな表彰式の後、最優秀園の「福島大学附属幼稚園」と「京都市立中京もえぎ幼稚園」の研究発表も行われました。

福島大学附属幼稚園は「自分で考え、試そうとする子どもを育てる－生き生きとした体験や安心して伝え合える環境を通して－」そして、京都市立中京もえぎ幼稚園は「“ねがい”－科学する心は“ねがい”からはじまる－」というテーマで、2園とも日頃の実践事例をそれぞれの研究視点に沿って考察し、幼児の学びとそれを支える教師の援助を明らかにした内容でした。

財団の方からは、世界情勢が変化する中、地域の実態を生かしながら独自の発想を広げ、新しい時代の学びに向けた実践に挑戦してほしいとお話がありました。

贈呈式の後には、祝賀会が行われ、審査委員、財団、受賞された園、小学校、中学校の先生方とお話することができました。受賞された先生からは、多忙な日々の中でも研究を積み重ねていく意義や必要性が現場の私たちにあること、研究をすることでチームとしての結束が強くなったこと、若手の先生が育ったことなどのお話を伺いました。受賞された先生方のお話からも、国公幼が、保育の質の維持・向上のために大事にしている「研修・研究の重要性」と「人材育成」は、今後も大きな柱となることを再確認することができました。

また、ある会員の方は国公幼の機関誌である「幼児教育じほう」が、研究を進める上で大きな存在になっていることを熱く語られました。日々の実践の充実と人材育成のために、「幼児教育じほう」の内容も、会員の皆様と共に充実させていきたいと思いました。